

## アマゾン森林減少をめぐるブラジル環境・開発政策の効果

責任者：舩方周一郎（東京外国語大学）

### ○報告者

舩方周一郎（東京外国語大学）「当パネルの趣旨と近年のブラジル環境政治の動向」

吉川沙耶花（茨城大学）「マツトグロソ州及びパラ州における土地利用変化」

光安アパレシダ光江（浜松学院大学）

「アマゾンのアグリビジネスと森林破壊—持続的な農業にむけて」

石丸香苗（福井県立大学）「近年の土地改革の動向とまとめ」

### ○討論者

小池洋一（立命館大学）

小坂康之（京都大学）

### パネル趣旨

いまや地球規模の環境問題として注目されるブラジル・アマゾンの森林は、時の政権がどのような政策を取るかに大きく左右される。労働者党時代前半には厳しい環境政策が功を奏し、2005年から2014年まで森林減少面積率50%減を達成したものの、開発重視派におもねる政策へと転換した後半は増加傾向に転じた。2019年に発足したボルソナロ政権の大規模開発重視の姿勢は大規模農牧推進勢力(ルラリスト)らに有利に働き、就任直後から森林火災や森林減少率の増加が報告され、世界的な環境問題として注視されている。

アマゾンの森林減少の動向はこのように環境政策に加え、コモディティのグローバルサプライチェーン、土地改革の動向など、各種の要素が複雑に絡まり表現していると考えられる。本パネルでは、政治・リモートセンシング・アグリビジネス・小農の見地からの報告によって、労働者党政権時代からボルソナロ政権までの環境政策が、大規模開発と小農の動きにどのように作用したか、それらがアマゾンの森林面積の動向にどう表れたかを考察したい。

### 報告① 舩方周一郎「当パネルの趣旨と近年のブラジル環境政治の動向」

2019年8月のアマゾン森林火災のニュースは世界的にも注目を集めた。事態を悪化させたのは、ブラジルの状況を取り巻く国際・国内の領域において、環境保全と経済開発が対立し合う環境政治が一般にも目に見える形で表面化したことにある。現在のブラジルの

環境政策はアマゾン森林面積が減少する傾向もあり、ボルソナロ政権に批判が集中しているが、環境保護の印象の強い労働者党政権期においても大規模森林開発につながるペロモンテダムの建設やアグリビジネスの参入を誘引する森林法の改正を試みるなど、環境保護に一辺倒ではなかった側面もあった。本報告はまず本パネルの基となる「アマゾンの森を脆弱化させたのは誰か—ブラジル環境・開発政策の影響の科学的検証：科研費基盤(B)20H04427」について概略を説明する。次に労働者党政権時代からボルソナロ政権までの環境政治の動向を振り返り、歴代政権の環境と開発政策の転換がアマゾンの森林減少にいかなる効果を与えてきたかを明らかにする。

#### 報告② 吉川沙耶花「マツグロソ州及びパラ州における土地利用変化」

2015年以降の森林減少の急増は、政権の変化、土地利用制限の緩和、肉牛協定の失敗などにより、森林伐採の抑止効果が薄れつつあることが関係している。政権や政策等の各種要素の効果が森林破壊ほどの程度影響を与えるのかは、開発の規模や土地利用変化をもたらす構成要素の違いにより異なる可能性がある。本報告では、世界最大の牧場及び大豆耕作地面積を有するマツグロソ州及びパラ州を対象として、衛星リモートセンシングデータや地理情報システムを用い1986年～2020年の農牧地（大豆、サトウキビ耕作地）、都市化地域の時系列変化を明らかにする。また、これらの土地利用はどんな土地利用からもたらされるのかについても明らかにする。これらの時系列変化やその構成要素と各種政策等との関係について、大規模及び小規模とで開発規模を区分して考察する。

#### 報告③ 光安光江「アマゾンのアグリビジネスと森林破壊—持続的な農業にむけて」

1980年代以降、ブラジルは農業生産量と効率の向上により、諸外国、特に中国とヨーロッパへのコモディティ供給国として重要な存在となったが、農牧業開発のための森林伐採はセラードおよびアマゾンにおける環境問題を引き起こしている。環境保護と農業開発、そして国際的な二酸化炭素削減協定のために、ブラジルは環境保護のための法規制と持続的な農業生産イニシアチブに取り組んだ。近年のボルソナロ政権に重なる2019/2021の三年間のブラジルの森林減少率は、森林減少率の増加は最高とも言えるレベルに達した。本報告では、アマゾンバイオームにおけるアグリビジネスセクターの成長プロセスの予備調査結果を示し、アグリビジネスのアマゾン森林減少への関与度合を検討する。

#### 報告④ 石丸香苗「近年の土地改革および小農の動向とまとめ」

アマゾンの森林減少や火災の原因について、ボルソナロ大統領は大規模開発よりも小農や土地なし農民による違法伐採の影響が大きいことを糾弾している。マイノリティ批判を繰り返し、大規模開発勢力と緊密な関係を構築するボルソナロ政権下で、小農や土地改革は何にどのように反応し、森林減少にどう影響しているのか。本報告では、労働者党政権時代からボルソナロ政権までの小農や土地改革に関する状況を整理し、小農に関する政策とアマゾン森林面積減少との関係を考察する。最後に、社会経済状況と政策に対するアグリビジネスと小農の反応、そして森林減少への影響についてまとめる。